

# 仁和 防災まちづくりニュース

【第3号 (2013年12月)】

●編集・発行

『仁和学区防災まちづくり協議会』

会長：上岡 修

〒602-8377 京都市上京区下ノ森通  
一条下（仁和会館）

防災まちづくりの取組が  
着実に進められています。

## 👉 月1回のペースで防災まちづくり協議会を開催しています！

仁和学区防災まちづくり協議会は、平成25年12月の第1回会合以降、概ね月に1回のペースで開催し、防災まちづくりの取組を着実に進めてきました。

昨年度に行った2回の「まちあるき」の結果を踏まえて、まずは、2方向避難の確保や路地の適正管理などの「すぐにでも対策ができそうな場所」30箇所をリストアップしました。

現在、リストアップした箇所について、住民の方々と意見交換を行いながら、対策の可能性の検討を進めているところです。

併せて、学区全体の防災意識の向上と防災に関する情報発信などを目的として、「防災まちづくりマップ」の作成に取り組んでおり、地域の皆さんにお集まりいただき、ワークショップも開催しました。



## 👉 ローラー作戦により、具体的な対策が進められています！

「すぐにでも対策ができそうな場所」のうち13路線について、協議会と京都市の合同で、「ローラー作戦（戸別訪問）」を行いました。（7月2日、10月17日）

所有者や住民の方に直接お会いして、防災まちづくりの必要性をご説明するとともに、路地奥への非常扉の設置や建物の耐震改修、路地の適正管理などについて意見交換を行いました。

ご理解をいただいた場所では、具体的に検討を進めています。近く、工事施工の見通しがついた場所もあり、防災まちづくりが一步ずつ進められています。



### 【これまでの活動の経過】

	H24 12月	H25 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
まちづくり協議会	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨				⑩
まちあるき		1回目	2回目										
ローラー作戦(戸別訪問)								1回目			2回目		
ブロック別ワークショップ											全4回		
防災まちづくりニュース		1号	2号										3号

合計約130箇所の路地を調査

月1回のペースで協議会を開催

防災まちづくりへの住民意見の反映

👉 ブロック別ワークショップの詳細は裏面をご覧ください。

まちあるきを踏まえて短期的な対策を検討

所有者や住民の方と意見交換

延べ100名が参加

# 🔑 ワークショップに延べ 100 名の方が参加されました！

町内会長及び自主防災会町部長の方を中心に、12ブロックに分かれて「ブロック別ワークショップ」を開催しました。ワークショップでは防災まちづくりの課題を共有するとともに、防災まちづくりマップの内容を充実させることを目的に、自分達の住む地域の災害時の安全・安心について意見交換しました。

地域の皆さんから、安全・安心のまちづくりに向けて、「不安なこと」、「地域で共有すべきこと」、「対策に関するアイデア」等、数多くのご意見をいただきました。

ワークショップには延べ 100 名の方が参加され、防災まちづくりに対する住民の皆さんの関心が非常に高いことを再認識しました。

## 【ブロック別ワークショップの参加者状況】

開催日	対象ブロック	参加者数
10月24日(木)	1, 2, 3	26名
10月31日(木)	4, 5, 6	34名
11月21日(木)	7, 8, 10	17名
11月29日(金)	9, 11, 12	23名
合計	—	100名



袋路が多く、災害時に避難できなくなる可能性がある

空き家が増えているのが気になる

お金は掛かるが、まずは自分たちの家の地震対策が必要

お寺さんに協力してもらえるように、地域から働きかけることが効果的だ

路地に放置されている物を整理整頓すれば、安全性が高まる

災害時には水の確保が重要

より安全な場所に町内の集合場所を見直すことが必要

高齢者が増えており災害時の避難が心配

高齢者や車椅子が安全に通れるよう、段差の解消が必要

日頃からの近所への声掛けや防災訓練が大切

袋路から通りやお寺へ抜けられる非常用の扉があると安心



自分たちでできる簡単なことから取り組もう

町内の集合場所に防災グッズを置くとよい

地域と行政との連携が重要

防災まちづくりの取組を学区住民にもっとPRすべき

隣のブロックや学区との連携も重要

防災まちづくりに関する情報やご意見がありましたら、仁和会館のポストに投函をお願いします。